科目ナンバリング	U-LAS05 20061 LJ31				
授業科目名 <英訳>	イスラーム世界論II Islamic World Theory II		担当者所属 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授　阿毛　香絵
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

イスラーム世界は、今やアラブ地域やアジア、アフリカといった地域的枠組みを超え、人の動きを汲みながら日本や欧米社会を含む様々な国、社会の内部に広がりをもっている。国際化、グローバル化の波が話題になって久しいが、コロナ以降のロシア・ウクライナ戦争、そしてイスラエル・パレスチナ戦争に見られるように、今や世界は新たに多極化の時代を迎えている。ローカルなレベルにおいてはかつての「他者」だった様々な人々が同じ社会の構成員になっているにも関わらず、日本、そして欧米社会において、様々な局面において全体主義的、排他的な言説の再興も見られる。

本講義では、長く欧米社会から「他者」として認知され研究対象とされてきたイスラーム世界について、当事者による思想や生活を通してより丁寧にとらえることで、イスラーム世界の文化、社会を内面から理解していくことを目的とする。

具体的には、①日々の生活レベルでの実践、②コミュニティ、③学びと知識交流、④政治を主な主軸として、それぞれのテーマについて、担当教員の専門とする西アフリカを一つの起点としながらも、様々な地域における事例を見ていく。より近年の事例から、移民社会のイスラームコミュニティ、デジタルネイティブ世代の動きなどのテーマも扱う。

こうした試みを通し、イスラーム世界とそれを取り巻く世界の動きとの関わりについて理解を深めると同時に、信仰の根底に流れる共通の教えや倫理、スピリチュアリティに関し、日本人になじみのある宗教観や精神文化とも対比させつつ論じることで、光をあてる試みも行う。これらを通し、本講義は、近現代におけるイスラーム世界のダイナミズムと多様性について、より深くかつ立体的に理解することを目的とする。

[到達目標]

(1)アジア、アフリカから欧州にまで広がるイスラーム世界の多様性を知り、イスラーム世界についてより多面的に捉えることができるようになる。
（2）西アフリカを中心として、現代のイスラーム世界における多様な動きや変容について広く情報収集し、理解する能力を養う。
（3）イスラーム世界を取り巻く言説に関して、より総合的、判的な視座から論じることができるようになる。

[授業計画と内容]

1．オリエンテーション（序）他者として描かれたイスラーム世界
2．生活・実践としてのイスラーム（1）
3．生活・実践としてのイスラーム（2）
4．信仰の基礎と宗教文化（1）
5．信仰の基礎と宗教文化（2）
6．ムスリム・コミュニティ（1）
7．ムスリム・コミュニティ（2）
8．学びと知識（1）
9．学びと知識（2）

イスラーム世界論II(2)へ続く↓↓↓

イスラーム世界論II(2)

10. イスラームと近代社会・政治（１）
11. イスラームと近代社会・政治（２）
12. 移民社会とマイノリティ・ムスリム
13. デジタルネイティブ世代のイスラーム
14. 筆記試験（授業内）
15. まとめ・フィードバック

※　講義の内容は、状況やゲストなどの有無を考慮し、変更することもある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

（１）毎回のレスポンスシート
（２）レポート課題（授業内で筆記試験の形で論述筆記を実施。持ち込み可）
（３）授業内の学生発表など（受講生の人数によって実施の有無を検討する）
※（１）（２）（３）の具体的な配分比率など成績評価に関わることは初回の講義で詳しく説明するので、履修を考えている学生は必ず初回の講義に出席してください。

[教科書]

授業中に指示する
以下の参考書を中心に、必要に応じて授業中に参考文献について紹介する。

[参考書等]

（参考書）

赤堀雅幸他編 『イスラ―ムの神秘主義と聖者信仰』（東京大学出版会、2005年）
阿毛香絵 『若者たちのイスラーム: 現代西アフリカを動かす宗教性の人類学』（風響社、2025年）
井筒俊彦 『スーフィズムと老荘思想（上・下）』（慶應義塾大学出版会、2019年）
大塚和夫他編 『岩波イスラーム辞典』（岩波書店、2002年）
苅谷康太 『イスラームの宗教的・知的連関網 : アラビア語著作から読み解く西アフリカ』（2012年）

私市正年 『北アフリカ・イスラーム主義運動の歴史』（白水社、2004年）
小杉泰 『イスラ―ムとは何かーその宗教・社会・文化』（講談社現代新書、1994年）
小杉泰 『現代イスラーム世界論』（名古屋大学出版会、2006年）
後藤絵美 『神のためにまとうヴェール』（中央公論新社、2014年）
坂井信三 『イスラームと商業の歴史人類学 : 西アフリカの交易と知識のネットワーク』（2003年）
坂井信三 『異なる者の出会いと共存 : 西アフリカ・ムスリムの人類学的聖者伝 』（世界思想社、2024年）
タミム・アンサーリー 『イスラ―ムから見た『世界史』』（紀伊國屋書店、2011年）
東長靖 『イスラームとスーフィズム―神秘主義・聖者信仰・道徳』（名古屋大学出版会、2013年）
中尾世治 『西アフリカ内陸の近代 : 国家をもたない社会と国家の歴史人類学』（風響社、2020年）
中田 考, 中田 香織 『やさしい神さまのお話』（百万年書房、2020年）
野中葉 『インドネシアのムスリムファッションーなぜイスラームの女性たちのヴェールはカラフルになったのか』（福村出版、2015年）

（関連ＵＲＬ）

http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/((大学院アジア・アフリカ地域研究研究科))

イスラーム世界論II(3)へ続く↓↓↓

イスラーム世界論II(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

レスポンスシート、レポート、具体的な評価方法・評価基準については、授業内で書き方を説明する。

[その他（オフィスアワー等）]

連絡手段については、最初の授業で明示する。

[主要授業科目（学部・学科名）]